

新熊野新聞

The Kumano Shimbun

2014年 2月12日
 (平成26年) 水曜日 / 先勝



発行所 株式会社 熊野新聞社
 本社 〒647-0081 新宮市新宮3563番地4
 営業部 TEL 0735-22-8080 FAX 0735-23-2246
 記者室 TEL 0735-22-8325 FAX 0735-28-1125
 info@kumanoshimbun.com
 http://kumanoshimbun.com

元気いっぱい!
祝日も発行!
 笑顔いっぱい!

熊野の林業再生へ 新集材システム検討会に100人 新宮市

前田商行株式会社(本社・紀宝町鶴殿、前田章博社長)は10日、新宮市内の山林でこのほど開発した先進的林業機械を活用した木材集材作業システムの現地検討会を開いた。和歌山、愛知、三重、奈良など全国から約100人の林業関係者が来場し、車両などを見学した。

タワーヤーダを積載した大型6WDトラックを見学する参加者たち。10日、新宮市内の山林



新システムは「平成24年度先進的林業機械緊急実証・普及事業」(林野庁補助事業)の助成を受けて開発した。オーストリアのコンラッド社製タワーヤーダ(※)と大型6WDトラックを組み合わせたもので、熊野地方の林業再生の足がかりになると期待されている。現行のタワーヤーダは、高さ7・4メートルでワイヤロープの長さ400メートル、最大つり上げ荷重2トンの新システムはタワーの高さ12・2メートル、ロープの長さ800メートル、最大つり上げ荷重4トンの。現行システムで課題となっていたパワー不足を解消するとともに、ワイヤロープの長

さと高さを確保することで、集材範囲が広がり、搬出量は3倍になった。現地検討会では、間伐作業のデモンストレーションと作業システムの生産性のデータ収集と分析に関する調査結果などが報告された。

前田社長は「ノルウェー人から「日本には木がたぐさんあるのになぜ輸入しているのか」と質問されたことを紹介。新システムは平成9年から思い描いていたと述べ、「夢

が実現した」と喜んだ。来賓として出席した林野庁の池田直弥・研究指導課長は、日本の山は育成期を過ぎ、伐採期を迎えているとし、「いよいよこれから本番。それぞれの地域できちっと管理していかねばならない」と話した。

※タワーヤーダは切り倒した原木を山から引き出す集材機械の一つ。従来型の架線(いわゆるヤエン)に比べて架設・撤去が容易。(龍谷 巨)

日本に合った林業機械

新宮市の山林で説明会

新しい林業機械による木材集材システムの説明会が10日、新宮市内の山林で行われた。和歌山、三重、奈良の3県から林業関係者や林務行政の担当者ら108人が参加。開発の経過や性能について説明を受けたほか、作業の様子を見学した。オーストリアのメーカーが作っている「タワー

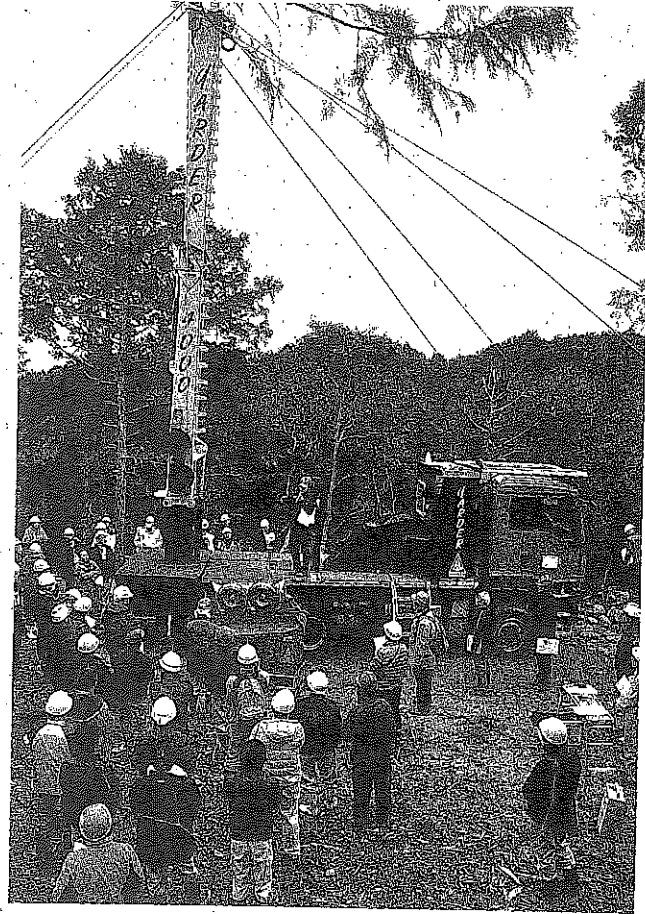
ヤード」という重機を日本向けに改良したものを。前田商行(本社・三重県紀宝町)が国の補助事業を活用して開発・導入し、この事業の一環として近隣の林業関係者向けに説明会を行った。

現場への林道が狭いところでは、これまで市販されている力の強い機械は使えなかった。前田商行の前田重博社長がメーカーと協議を重ね、これまでより力が強く、高いタワーを持つ機器を、道幅3・5メートルの林道が通れるような車に積載できるような新たに開発した。従来よりタワーが高くなり、ワイヤを長く伸ばせるようになったことで、途中の木に引っ掛からず遠くの木が運べるように

なっているほか、一度に運べる木の量も増えたという。説明会ではメーカーの担当者が性能などを紹介。森林総合研究所の伊藤崇之さんが「平均荷かけ量は従来の0・45立方

メートルから1・29立方メートルになった。労働生産性が向上した。斜面の急な場所ではもっと効果があると考えている」などと分析結果を説明した。

前田社長は「多くの方に関心を持ってもらえた。(山林事業者の)期待に応えられる数字が出ていると思う。国産材の利用率が50%を切っていない。材を供給できていない部分もあるので、同様の機械の導入が進めば」と地域林業の活性化に期待を寄せていた。



新型機械の説明を受ける林業関係者